

柔道しずおか

平成20年3月 静岡県柔道協会発行

事務局 〒431-0302 静岡県浜名郡新居町新居3035-6 石黒金次
TEL・FAX (053) 594-2403

【巻頭言】

「国体」こそわが柔道人生の道標

静岡県柔道協会副会長・理事長 八段 安齊悦雄

第62回秋田国体の際、(財)全日本柔道連盟の推薦により栄誉ある「国体功労者表彰」を受賞した。これは、(財)日本体育協会の表彰制度に依り「国体に通算30回以上参加した者」に与えられるものである。私の場合、今回に至るまで、選手として10回、監督として10回、総監督2回、審判員6回、本部役員3回、競技役員1回合計32回参加したこととなる。

9月29日、総合開会式に先立ち、県体協 齊藤斗志二会長のご配慮により、県選手団の前で受賞報告と花束贈呈という思いがけないセレモニーが用意され、晴れがましい想いで何年か振りかの入場行進に選手団とともに参加することができた。

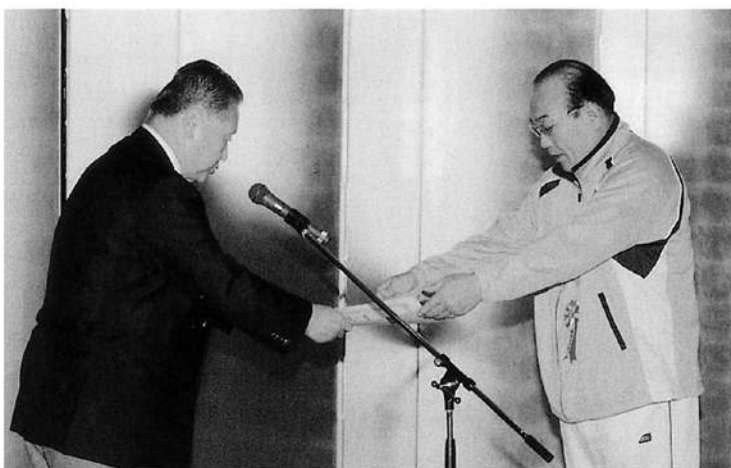
開会式終了後、秋田キャッスルホテルでの表彰式に臨み、森喜朗 日体協会会長より表彰状を授与された。さらに懇親会の席上では、ご臨席を賜った天皇・皇后両陛下に拝謁、今回の表彰

高校二年生で初出場以来、足掛け45年間、視察員やスカウト活動などを加えれば40回を超えたことになる。

この国体で、優勝の歓喜も、惨敗の屈辱も共に味わい、その一つひとつは、今となってみれば貴重な体験だったと思わずにはいられない。

そもそも柔道を始めるきっかけを作ってくれたのも、昭和30年、第10回国体柔道競技が郷里の鎌倉で開かれた時である。当時小学校四年生10歳だった私も、先生に引率されて級友たちと柔道の試合を初めて観戦した。

これを機に鎌倉でも柔道ブームが訪れ、兄や友人たちが町道場へ通い始め、野球少年だった私も時々道場の武者窓から覗くようになり、たちまちその魅力の虜となってしまうたのである。もちろん中学入学と同時にためらうことなく柔道部に入部したわけである。



森元総理より表彰される

感極まった次第である。ふり返ってみれば、国体こそわが柔道人生の道標であったと感慨も一入である。

以来、柔道一直線、高校二年17歳の時、初の全国規模の大会、即ち第17回岡山国体で第3位入

賞を果たしたことは強烈な印象として今も鮮やかに思い出すことができる。

偶然にも、国体の回数と私の年齢が重なっていることに因縁めいたものを感じ、国体への思い入れを一層強いものにしていく。

第62回大会において、わが静岡県チームは大活躍、とりわけ女子は、少年女子3位、成年女子5位となり、皇后杯2位という過去最高の成績を収めてくれたことは、わが柔道しずおかの未来に明るい展望をもたらしてくれたものとして、その健闘を高く評価するとともに、これを機に多くの選手諸君が志を高く夢に向かって翔いてくれることを期待してやまない。

国体は、勝負はもちろん、全国の選手・役員が一堂に会する場として、友情の輪をひろげ、さまざまな情報交換を行い、互いに切磋琢磨する絶好の機会である。

また、開催地の風土や人情に触れることができ、生涯忘れ得ぬ思い出づくりとしても格好の場所でもあろう。

これからも、若い選手たちの登竜門として一層の充実と発展を願うものである。

第62回 国民体育大会

秋田わか杉国体 柔道競技 女子チーム大活躍 皇后杯2位

秋田わか杉国体が、10月7日(日)～9日(火)秋田県立武道館で開催された。県勢は、少年男子は東海大会を勝ち抜くことができなかったが、少年女子、成年男子、成年女子が本大会に出場した。成年男子も3回戦進出とがんばったが、女子チームが、少年女子3位、成年女子5位、皇后杯2位となり大活躍だった。
代表チームの主務を務めた宮本昌人さんからの国体報告と、少年女子チームの先鋒として活躍した加賀谷千保さんの感想を掲載する。



国体で初の皇后杯2位に輝く

◆善戦した成年女子・男子

常葉学園高等学校教諭 宮本昌人

第62回国民体育大会「秋田わか杉国体」が秋田県立武道館に於いて、平成19年10月7日(日)～9日(火)の日程で開催されました。野田総監督をはじめ、少年女子・勝呂監督、成年女子・左口監督・成年男子・渡辺監督のもと、スタッフ・選手が一丸となって上位入賞を目指しました。

成年女子一回戦は、国内外で活躍した強豪をそろえる埼玉県と対戦しました。先鋒・川口、中堅・松本、大将・岡田の3選手が引き分けたため、代表戦で岡田選手と埼玉県の大將・小松崎選手が対戦して、岡田選手の寝技での攻撃が功を奏し、判定で岡田選手が辛勝しました。続いての準々決勝では地元、秋田県チーム(成年女子・優勝)と対戦しました。開催県である秋田県チームの登場とあって、地元チームへの声援は凄まじいものがありました。静岡県チームはそれを跳ね返すような積極的な攻撃を見せましたが、中堅・松本選手が一本負けして、残念ながらベスト8で敗退してしまいました。

しかし、少年少女・成年女子

の活躍により、静岡県柔道の歴史はじまって以来、皇后杯・準優勝という輝かしい成績を残すことが出来ました。

成年男子は2回戦からの登場で、山口県と対戦しました。先鋒・川島、次鋒・真野両選手が引き分け。中堅・小椋選手が指導を2回受け、注意で負けてしまったものの、副将・齋藤、大将・土田両選手が、気を吐き積極的に攻撃した結果、相手の反則により優勢勝ちをおさめ、2対1で勝ちました。

3回戦で東京都と対戦した成年男子は惜しくも内容の差で負け、準々決勝進出を逃してしまいました。東京は全日本クラスの選手ばかりで、本県選手は思いうような柔道をさせてもらえませんでした。先鋒・川島、次鋒・真野、中堅・小椋の3選手が粘って引き分け。副将・齋藤選手も相手の攻めをよくしのぎましたが、中盤に支え釣り込み足を取られ苦杯をなめました。大将・土田選手はじっくりチャンス待ち、残り1分15秒、相手が足を掛けにきたところを内股すかして返し有効を取ることができました。すかさず一本を狙い、そのまま抑え込みに入ろうとしましたが逃げられてしまい、惜

敗しました。
今回の国民体育大会は選手の気概あふれる闘いぶりが心に残る大会となりました。

◆試合結果

【少年女子】

10月7日(日) 第1日目

1回戦

静岡県(赤) 3対0 長野県(白)

2回戦

東京都(赤) 0対1 静岡県(白)

準々決勝

静岡県(赤) ①対1 千葉県(白)

(内容勝ち)

静岡県(赤) 1対① 宮崎県(白)

(代表勝ち)

準決勝

3位決定戦

静岡県(赤) 1対0 埼玉県(白)

少年女子3位入賞



【成年女子】

10月7日(日) 第1日目
1 回戦

静岡県(赤) ①対0 埼玉県(白)
(代表勝ち)

準々決勝

静岡県(赤) 0対1 秋田県(白)

成年女子ベスト8

【成年男子】

10月8日(月) 第2日目
2 回戦

静岡県(赤) 2対1 山口県(白)

10月9日(火) 第3日目

3 回戦

東京都(赤) ①対1 静岡県(白)
(内容勝ち)

◆3人で一試合

藤枝順心高等学校 加賀谷千保

昨年の秋、私は初めて国体に
出場しました。会場は、各県の
代表選手や応援団で賑わって
いました。試合場はとても広く
畳が一段上がっていて、ここ
で試合が出来るのだとワクワク
したことを覚えています。

一回戦の相手は長野県でした。
私は先鋒なのでチームの流れ
をつくるという役割があります。
だから、絶対にポイントを取
ってこようと思いい、試合に
臨みました。少しやりにくい
相手でした。

たが、内股で技ありを取って
次につなげる事が出来ました。
続く増田さん、村瀬さんは
二人とも一本勝ちで快勝する
ことが出来ました。

二回戦は東京都でした。私の
相手は国内外で活躍している
中村美里(渋谷教育学園渋谷
高校)選手です。しかし、私が
ポイントを取られてしまったら
チームに迷惑をかけてしまう
ので、何とか引き分けようと
思いました。

中村選手は組み手が上手く、
全くといいほど自分の組み
手にすることが出来ません。当
然技をかけることも出来ず
、なんとか引き分けに持ち
込むことが出来ました。その後
、増田さんも引き分けで勝負
は大将戦に持ち込まれました。
最初、村瀬さんはやりにく
そうでしたが、そのまま抑え
込んでポイントを取り、その
まま抑え込んでチームを勝利
へと導いてくれました。

しかし喜んでいる暇はあり
ません。三回戦の千葉真は
インターハイ団体戦三位の
八千代高校の選手が代表とし
て出場していました。私の相
手は今年のインターハイの
個人戦で対戦し、一本勝ち
した選手でした。当然ベンチ
には私の勝ちを計算していた
と思います。しかし、逆に
有効ポイントを取られ負けて
しまいました。私が作ってしま
った悪い流れを断ち切るよう
に、増田さんが強敵相手に
きつちりと引き分けてくれ
ました。そして大将戦。私は
祈るような気持ちでした。:
「一本」村瀬さんが見事勝利
!! 私のミスで二人がカバ
ーしてくれ、準決勝に進む
ことが出来ました。

準決勝は宮崎県。私は気持ち
を切り替えて試合に臨み、
一本を取る事が出来ました。
増田さんの相手は、インター
ハイ63kg級優勝者の菊川選
手でした。強敵相手に粘り
ましたが、一本を取られて
しまいました。大将戦は引き
分け。一対一の同点で代表
決定戦となりましたが、僅
差で負けてしまいました。

しかし、落ち込んではい
られません。まだ、三位決
定戦が残っていたのです。
相手は埼玉県。三人とも
あの有名な埼玉栄高校の
選手でした。強敵ですが、
気持ちで試合に臨みました。
すると、思っていたよりも
あっさり一本を取ることが
出来ました。

増田選手はあの上野巴恵
(旭川南高校)選手に勝つ
たところがある池田選手
です。しかし増田さんは臆
することなく攻め

ていきました。途中、様子
が変わり不安になりました
が、引き分けて大将戦とな
りました。村瀬さんも引き
分け、一対〇で三位入賞
することが出来ました。静
岡県チームは笑顔で試合
を終えました。

後から増田さんに聞いた
話ですが、池田選手との
試合中に肩がはずれてしま
ったのだそうです。様子
が変わったのはそのせ
いだったのだとわかり
ました。しかし、ケガを
負っても最後まで試合
をやりきったということ
に、私は大変驚き、感動
しました。学校は三人
とも別々ですが、全員
が心を一つにして戦
えたと思います。団体
戦は三人で一試合。ま
さにその通りだと今
回の団体戦で改めて感
じる事が出来ました。

団体出場にあたり、大
変多くの方々にお世話
になりました。このよう
な貴重な体験をさせて
いただき、本当にあり
がとうございました。今
後の自分の柔道に生か
せるよう、もっともっ
と努力していきます。

第62回 国民体育大会
柔道競技静岡県選
手団

総監督 野田昭一(静岡
学園高校教員)
総務 間宮幸男(興誠
高校教員)

主務 宮本昌人(常葉
学園高校教員)
トレーナー 鈴木孝次
(孝心整骨院)

成年男子
監督 渡辺達也(静岡
県警察)
先鋒 川島靖史(豊岡
中学校教員)
次鋒 真野洋光(東海
大学)
中堅 小椋俊彦(静岡
県警察)
副将 齋藤和仁(静岡
県警察)
大将 土田将正(十全
会聖明病院)

成年女子
監督 左口直人(天竜
林業高校教員)
先鋒 川口有紀(静岡
県警察)
中堅 松本笑嘉(東海
大学)
大将 岡田紘味(三井
住友海上火災)

少年男子(東海大会
代表チーム)
監督 間宮幸男(興誠
高校教員)
コーチ 小柳津敬博(東
海大翔洋高校教員)
コーチ 宮本昌人(常
葉学園高校教員)
先鋒 朝比奈直治(東
海大翔洋高校)
次鋒 福長優司(静岡
学園高校)
中堅 山下亮輔(静岡
学園高校)
副将 平井亮輔(東海
大翔洋高校)
大将 外村健行(東海
大翔洋高校)

少年女子
監督 勝呂良三(庵原
高校教員)
コーチ 沼野由香利(藤
枝順心高校教員)
先鋒 加賀谷千保(藤
枝順心高校)
中堅 増田奈美(静岡
学園高校)
大将 村瀬晴香(庵原
高校)

少年男子(東海大会
代表チーム)
監督 間宮幸男(興誠
高校教員)
コーチ 小柳津敬博(東
海大翔洋高校教員)
コーチ 宮本昌人(常
葉学園高校教員)
先鋒 朝比奈直治(東
海大翔洋高校)
次鋒 福長優司(静岡
学園高校)
中堅 山下亮輔(静岡
学園高校)
副将 平井亮輔(東海
大翔洋高校)
大将 外村健行(東海
大翔洋高校)

少年女子
監督 勝呂良三(庵原
高校教員)
コーチ 沼野由香利(藤
枝順心高校教員)
先鋒 加賀谷千保(藤
枝順心高校)
中堅 増田奈美(静岡
学園高校)
大将 村瀬晴香(庵原
高校)

第49回

静岡県柔道祭開催

今年度の柔道祭は、5月6日(日)午前9時30分から例年通り静岡県武道館で開催された。開会式に続いて、恒例の柔道協会表彰が行われた。特別功労賞2名、功労賞11名が表彰された。また、優秀選手賞として、第21回全日本視聴覚障害者柔道大会63kg級で優勝した山内真由美さん(高山柔道塾)が表彰された。今年度からスポーツ祭が無くなり、県下の柔道家が一同に集う大会はこの柔道祭だけになった。小学生から一般まで多くの柔道家の元気な声が一日中響いていた。

静岡県柔道協会表彰

特別功労賞

七段 中西儀久、加藤一郎

功労賞

七段 竹島政幸

六段 丸山 繁

五段 古屋定彦、宮本武幸

佐野慎吾、鈴木克美

高山直久、阿部光好

四段 中澤一仁、坪内仁志

参段 渡辺寿久

優秀選手賞

初段 山内真由美(高山柔道塾)
第21回全日本視覚障害者柔道大会 63kg級 優勝

講道館柔道形の部優秀賞

投の形 取四段 斉藤収司
受三段 尾藤設則
(土道会)

極の形 取五段 森下良男
受四段 高林裕介
(浜北柔道協会)

柔の形 取六段 一瀬 誠
受六段 竹内紀久夫
(浜北柔道協会)

団体成績

小学校の部

1位 伊豆長岡柔道会

2位 大仁柔道会

3位 高山柔道塾

3位 新居町柔道少年団

中学校の部(男子)

1位 静岡学園中学校

2位 東海大翔洋中学校

3位 錦田中学校

3位 長岡中学校

中学校の部(女子)

1位 市立沼津高校中等部

2位 東海大翔洋中学校

3位 富士宮第一中学校

3位 常葉学園橘中学校

高校の部(男子)

1位 静岡学園高校

2位 東海大翔洋高校

3位 飛龍高校

3位 浜松工業高校

高校の部(女子)

1位 庵原高校

2位 浜松商業高校

3位 藤枝順心高校

3位 静岡学園高校

一般の部

1位 富士市柔道会

2位 東海翔柔クラブ

3位 静岡産業大学

3位 滝井道場

優秀選手

小学校の部

遠藤太一(伊豆長岡柔道会)

渡辺明星(大仁柔道会)

中学校の部(男子)

小澤秀彰(静岡学園中学校)

佐藤貴也(東海大翔洋中学校)

中学校の部(女子)

神山結理(市立沼津高校中等部)

瀬川直莉(東海大翔洋中学校)

高校の部(男子)

正治和也(静岡学園高校)

堀川達也(東海大翔洋高校)

高校の部(女子)

村瀬晴香(庵原高校)

兼子貴江(浜松商業高校)

一般の部

土田将正(富士柔道会)

小笠原一敏(東海翔柔クラブ)

◆皇后杯2位祝賀会開催

秋田国体で静岡県女子チームは成年女子が5位、少年女子が3位に入賞し、総合2位になった。静岡県柔道にとって初めての快挙であり、1月19日(土)静岡で祝賀会を行った。高柳会長の挨拶に続き、女子県チームの監督・コーチ・選手に賞状と記念品が贈呈された。国体を思い出しながら、話に花が咲いた夜だった。



第一回 静岡スポーツフェスティバル柔道競技について

第一回静岡スポーツフェスティバル柔道競技が平成19年11月11日に行われた。西部地域大会が

浜北総合体育館グリーンアリーナ、東部地域大会は沼津市勤労者体育センターを会場に実施された。大会会長よりご挨拶があり、その中で第一回静岡スポーツフェスティバル大会会長齊藤

斗志二様からのフェスティバルの経緯・趣旨説明メッセージが紹介された。次にご来賓の方々からご挨拶をいただいた。その後、元気な選手宣誓があり大会が開始された。

西部地区の大会の小学生低学年は3人制による団体点取り試



合で実施された。団体戦に初めて出場する選手も見られ緊張感を感じられたが、試合が進むにつれて日ごろの練習の成果が発揮されているようだった。小学生高学年は5人制による団体点取り試合で実施された。

中学生男子は5人制による団体点取り試合で実施された。技のきれやスピード感があり見たえのある試合が随所に見られた。

中学生女子は3人制による団体点取り試合で実施された。体重差、実力差が感じられる試合が多くあった。また、三人選手がそろわず二人で出場するチームもあり、選手不足が表面化してきた。

高校生男子は一年生で無段者、有段者の体重別個人試合で実施された。無段者で黒帯を目指す選手が元氣よく一本を取る柔道をしていった。有段者では来年を見据えての厳しい試合が繰り広げられていた。

高校生女子は一年生で無段者、有段者の体重別個人試合を計画したが、有段者軽量級のみに参加があり、物足りなさを感じたが、選手は真剣に試合をしていた。成年は段別個人戦で実施され

た。公認試合ということもあり参加者が多く、年齢を感じさせない良い試合で汗を流していた。東部地区でも5人制の小学生団体戦の部、3人制の中学生女子団体戦の部、5人制の中学生男子団体戦の部、高校生個人の部（有段者と無段者の部）、段別の一般の部に分かれて熱戦が展開された。

第一回目ということもあり参加を控えていたチームもあったようだが、底辺の拡大・柔道人口を増やすためには、今後大会が継続されるように協力をしていただけることを願っている。

柔道協会表彰

平成19年11月10日(土)

午後2時から

例年県民スポーツ祭の県大会で実施していた柔道協会表彰ですが、今年度から県民スポーツ祭が無くなり、各地区ごとのスポーツフェスティバルに変更になったため、県の理事会に合わせ実施された。

今年度の表彰者は下記の通りだが、都合で表彰対象者本人が参加されたのは6名だった。最初に高柳会長から挨拶があり、続いて記念品と賞状が授与され



柔道協会表彰

◆優秀選手

○都道府県対抗

第23回全日本女子柔道大会

団体第3位

監督 六段 左口直人 (天竜林業高等学校)

大将 二段 岡田紘味 (三井住友海上)

副将 二段 松本笑嘉 (東海大学)

中堅 二段 杉山希美 (東海大学)

次鋒 三段 川口有紀 (静岡県警察)

先鋒 三段 望月加奈子 (常葉学園橋高等学校)

○第10回全日本女子ジュニア

柔道体重別選手権大会

52kg級 優勝

2007年韓国ジュニア

国際柔道大会

52kg級 優勝

初段 加賀谷千保 (藤枝順心高等学校)

た。

○第56回全国高等学校総合体育大会柔道競技
男子 66kg級 第3位
初段 正治和也 (静岡学園高等学校)

○第38回全国中学校柔道大会
女子 44kg級 第3位
片岡まゆ (富士宮第一中学校)

岡田選手全日本出場

天竜林業高校卒業、三井住友海上火災所属の岡田さんが昨年に続き今年度も全日本女子選手権大会に出場した。上位進出は成らなかつたが、今後の活躍に期待したい。

平成20年静岡県柔道選手権兼全日本柔道選手権大会予選会

平成20年2月10日(日)

県武道館

男子の部

第1位 小椋俊彦 (機動隊)

第2位 増田圭省 (セコム)

女子の部

第1位 野呂 瞳 (富士柔道会)

推薦 岡田紘味 (三井住友海上)

以上4名が東海地区予選会に出場する。

第4回全国小学生学年別柔道大会

平成19年8月19日

愛媛県武道館

○男子5年生45kg級

加藤雄哉(神戸館) 予選リーグ敗退

○男子5年生45kg超級

花井拓哉(積武館) 予選リーグ敗退

○男子6年生50kg級

矢萩大貴(神戸館) 予選リーグ敗退

○男子6年生50kg超級

佐藤和哉(武道学舎) 予選リーグ敗退

○女子5年生40kg級

渡邊香奈(静岡錬心館) 予選リーグ敗退

○女子5年生40kg超級

遠田真子(清水柔道倶楽部) 予選リーグ敗退

○女子6年生45kg級

伊奈郁乃(伊豆長岡柔道会) 予選リーグ敗退

○女子6年生45kg超級

滝川真央(友愛道場) 決勝トーナメント(ベスト16)

第38回全国中学校柔道大会

平成19年8月22日~25日

山形県総合運動公園総合体育館

男子団体

静岡学園中学校 予選リーグ2勝

静岡学園中①-1

青森山中(青森)

静岡学園中2-1

藍住中(徳島)

静岡学園中学校

決勝トーナメント1回戦敗退

静岡学園中0-2

太刀洗中(福岡)

女子団体

東海大翔洋中学校

予選リーグ1勝1分

東海大翔洋中1-1

福工大福井中(福井)

東海大翔洋中2-1

五十市中(宮崎)

東海大翔洋中学校

決勝トーナメント2回戦進出

東海大翔洋中2-0

國学院栃木中(栃木)

東海大翔洋中0-2

藍中(兵庫)

(ベスト8)

男子個人

55kg級 惟村伸平(愛鷹中)

初戦敗退

60kg級 吉澤 駿(静岡学園中)

初戦敗退

66kg級 土田彰吾(錦田中)

初戦敗退

73kg級 小和田省三(観山中)

2回戦進出

81kg級 時田 卓(葉梨中)

2回戦進出

90kg級 渡辺 漢(高台中)

初戦敗退

90kg超級 鈴木悠仁(福田中)

初戦敗退

女子個人

44kg級 片岡まゆ(富士宮一中)

第3位入賞

48kg級 豊島菜摘(常葉学園中)

2回戦進出

52kg級 長嶋麻未(市立沼津中)

3回戦進出(ベスト16)

57kg級 村上のどか(市立沼津中)

2回戦進出

63kg級 小野千裕(愛鷹中)

3回戦進出(ベスト16)

70kg級 渡辺貴子(富士宮一中)

4回戦進出(ベスト8)

70kg超級 瀬川直莉(東海大翔洋中)

3回戦進出(ベスト16)

第56回全国高等学校総合体育大会

平成19年8月8日~12日

佐賀県基山町総合体育館

男子団体戦 静岡学園高等学校

全国ベスト16に入り優秀賞となる

予選リーグ 優勝

一回戦 静岡学園3-1

長崎東(長崎)

二回戦 静岡学園5-0

城ノ内(徳島)

決勝トーナメント戦 初戦敗退

一回戦 静岡学園1-2

山形工業(山形)

女子団体戦 庵原高等学校

予選リーグ 2位

一回戦 庵原高校1-1

宮崎商業(宮崎)

二回戦 庵原高校1-1

旭川大高(北海道)

男子個人戦

60kg級 朝比奈真治(東海大翔洋)

初戦敗退

66kg級 正治和也(静岡学園)

第3位入賞

73kg級 福長優司(静岡学園)

ベスト16

81kg級 前原 聖(浜松商業)

初戦敗退

90kg級 山下諒輔(静岡学園)

初戦敗退

100kg級 伊野和也(飛龍)

ベスト16

100kg超級 外村健行(東海大翔洋)

ベスト16

女子個人戦

48kg級 鈴木由紀乃(藤枝順心)

ベスト16

52kg級 加賀谷千保(藤枝順心)

ベスト16

57kg級 勝呂 綾(庵原)

初戦敗退

63kg級 中尾彩乃(東海大翔洋)

ベスト16

70kg級 鈴木流風(浜松商業)

ベスト16

78kg級 増田奈美(静岡学園)

ベスト8

78kg超級 村瀬晴香(庵原)

初戦敗退

男子第39回全日本ジュニア

柔道体重別選手権大会

女子第10回全日本女子ジュニア

柔道体重別選手権大会

平成19年7月1日

静岡県武道館

各クラス優勝者は東海大会に出場、東海大会の優勝者が全国大会出場

男子ジュニア

60kg級 吉竹雄城(常葉学園橘)

全国大会出場(ベスト8)

66kg級 正治和也(静岡学園)

73kg級 堀内将志(東海大翔洋)

81kg級 遠藤 仁(静岡産業大)

90kg級 後藤 亮(東海大翔洋)

100kg級 平井亮輔(東海大翔洋)

100kg超級 坂中慎吾(静岡産業大)

女子ジュニア

48kg級 鈴木由紀乃(藤枝順心高)

52kg級 加賀谷千保(藤枝順心高)

57kg級 勝呂 綾(庵原高)

63kg級 中尾彩乃(東海大翔洋)

70kg級 山村瑞葉(浜松北高)

78kg級 増田奈美(静岡学園高)

78kg超級 村瀬晴香(庵原高)

全国大会出場(ベスト8)

全国大会出場(ベスト8)

全国大会出場(ベスト8)

全国大会出場(ベスト8)

全国大会出場(ベスト8)

全国大会出場(ベスト8)

都道府県対抗
第23回全国女子柔道大会
3位入賞

都道府県対抗第23回全国女子柔道大会が平成19年6月16日・17日に岡山武道館で開催され、一昨年に続いて全国3位に入賞することができた。監督を務められた天竜林業高校の左口先生より報告をいただいたので掲載する。

監督 左口直人(天竜林業高校教員)
先鋒 望月加奈子(常葉学園高校教員)
次鋒 川口有紀(静岡県警察)
中堅 杉山希美(東海大学学生)
副将 松本笑嘉(東海大学学生)
大将 岡田紘美(三井住友海上大災機)

予選リーグ
静岡県 0-1 神奈川県
静岡県 3-1 京都府
予選リーグ3県3強みになり、勝ち点内容がよい静岡県が決勝トーナメントに出場

決勝トーナメント
1回戦
静岡県 2-1 茨城県
若い二人が(杉山、松本)が、「ここ一番の力を発揮して2勝した」、後ろ3人の力で勝利し

た。しかし、前の二人が流れを作ってくれたことがチームの勝因である。

2回戦

静岡県 2-0 千葉県
この試合も前の二人が流れを作り、若い三人がのびのびと試合をした事が勝因である。杉山・松本・岡田が少しづつではあるが自信をつけたように感じられた。この試合で望月が負傷した。残り1分を片足で戦ったことが全員の闘志を燃え上がらせた事も勝因である。

準決勝

静岡県 1-4 愛媛県

望月の負傷はチームにとつては大変痛かったが、後を川口が繋ぎ若い三人が一丸となり強化指定選手に挑戦していった。力及ばず敗れたものの、今後の静岡県の柔道界にとつて大きな財産になったと思う。

★総評

全体的には他県と比べて若いチームだと思

われる。先鋒の望月はチームの柱として、次鋒の川口はチームのムードメーカーとしてその役割をしっかりと果たしてくれた。

中堅の杉山は試合に慣れるに従って力を出してきた。副将の松本も昨年に比べて落ち着きが出てきたと思う。大将の岡田は精神的にも技術的にも成長過程にあり来年は今年よりさらに期待できる。

若いチーム故のもろさもあるが、今後多くの大会で経験を積んでいけば面白いチームができると感じた。また、大学生の参加を呼びかけ、層の厚さを増すことが今後の課題であると思う。



◆教員大会を振り返って…

監督 伊藤武治

8月5日、大分県立総合体育館におきまして第63回国民体育大会リハール大会として第32回全国教員柔道大会が開催されました。静岡県チームは選手も若く「団結力」で試合に臨みました。一回戦はシードで沖繩対大阪の勝者と対戦することになり試合を見ましたが、大阪が4-1で圧勝し対戦することになりました。厳しい試合が予想されましたが選手一人一人が悔いのない試合をしてくれることを望みました。

引き分け狙いにかけている相手からポイントを取るのには大変厳しいものがありました。しかし、選手は力を出し切って試合をしてくれました。試合中に怪我をする他県選手も見られ、練習不足がちな教員の試合には今後議論を呼びそうな感じがします。試合以外の時間で選手たちと情報交

換をし、柔道に対する熱意・情熱が感じられ、先輩指導者として大変有意義な時間を過ごすことができました。

2回戦 静岡県0-1大阪府

第32回全国教員柔道大会
静岡県選手団名簿

監督 伊藤武治 新居高等学校教頭
大将 山崎大介 富士宮北高等学校教員
副将 井口往彦 浜北西高等学校教員
中堅 松野立 浜松北工業高等学校教員
次鋒 小塚直哉 飛龍高等学校教員
先鋒 佐野薫 清水東高等学校教員



道場紹介

じょうじょう

じょうじょう

県内各地でがんばっている「道場」を
各地区2道場ずつ紹介します。

- ①名称
- ②住所
- ③連絡先
- ④代表者氏名
- ⑤所属人数

葦山柔道教室

- ②〒410-2123 伊豆の国市四日町231-1
- ③☎055-949-6664 (長嶋)
- ④会長 長嶋 秀基
- ⑤小学生47名 中学生16名
高校、社会人24名 (女子21名)

⑥道場紹介

昭和44年4月地元青年団が葦山町青年団柔道教室を創設。47年4月斉藤圭司、小島登両先生が小、中学生を中心に葦山町柔道教室(現葦山柔道教室)と名称変更し毎週火・金は小学生、木は中学、社会人が稽古に励んでいます。

「元氣よく楽しく」をモットーに小学生から大人まで幅広く柔道以外に座禅、キャンプ、スキー

等楽しみもあります。



伊豆市柔道部

- ②〒410-3302 伊豆市土肥46 (会長宅)
- ③☎0558-98-2568 (事務局 山口雄一)
- ④会長 山口 友孝
- ⑤幼児17人 小学生87人 中学生18人
高校生4人 学生・社会人56人
計182人

⑥道場紹介

伊豆市柔道部は、平成16年4月1日、4町の合併により誕生した「伊豆市」と共に、山口友



藤南柔道塾

- ②〒426-0063 藤枝市青南町2-3-14
- ③☎054-635-8414
- ④塾長 川中 邦夫
- ⑤児童3人 小学生20人 中学生8人
高校生3人 大学社会人25人

⑥道場紹介

平成14年7月2日、静岡県武道館を稽古拠点として発足した。火木土の夜間、県下一の道場で稽古ができる喜びをかみしめ

孝(元オリンピック・ナショナルコーチ)会長の下に創設されました。
それ以前から活動していた修善寺柔道会、土肥柔道クラブ、天城柔道会、中伊豆柔道会が一つになり、伊豆市柔道部としての活動を始めました。
各地域間は遠距離なため、平日の稽古は、創設前と同様に各地域の道場で行っていますが、1ヶ月に1回程度の合同練習と12月に少年大会を開催するなど、「精力善用 自他共栄」の精神で交流を重点に活動しています。

励んでいます。

平成19年11月4日に開塾5周年記念藤南少年柔道大会を20団体280名の選手の参加を得て盛大に開催する事ができ、内部的にも塾の絆を更に深めることができました。
塾の目的を「柔道を生涯スポーツととらえ、柔道を通して少年の健全育成を図る」又「邂逅」を旗印としており、柔道を通じた出会いを大切に、精進を重ねております。

今後とも指導ご協力をお願い致します。





⑥道場紹介
平成14年4月、旧東海大1高柔道場をお借りしてスタートしたばかりの道場ですが、「正しい柔道技能の修得を目標に、その修練を通じ心身の鍛練をはか

静岡練心館

- ②〒424-0835 静岡市清水区上清水3-4
- ③☎054-353-2565
- ④館長 岡本雅之
- ⑤小学生31名 中学生11名

菊川市柔道スポーツ少年団

- ②〒439-0018 静岡県菊川市本所950-47 (株)ウサミ内
- ③☎0537-35-2758(代)
- ④代表者 沖 義和
- ⑤児童(幼児)1名 小学生36名
中学生12名 高校生4名 大学生2名
社会人(指導者)6名
一般社会人2名 合計63名

り「精力善用、自他共栄」の精神の体得に努める」を指導方針に、指導者、岡本雅之、林義則、古川隆士三人の情熱だけはどこにも負けないぞという意気込みで指導に当たっています。
現在は、東海大翔洋高柔道場にて、毎週月・火・水・金の19時より21時まで、小学生31名、中学生11名が元気に汗を流しています。
お陰で、全国小学生学年別大会に3名が出場、中学総体でも4名が全国へ出場、団体でも、今年の中部地区大会で優勝を果たすことができました。
これからも県下各地の伝統ある道場を目標に、「追いつけ、追い越せ」とがんばっていきたいと思います。

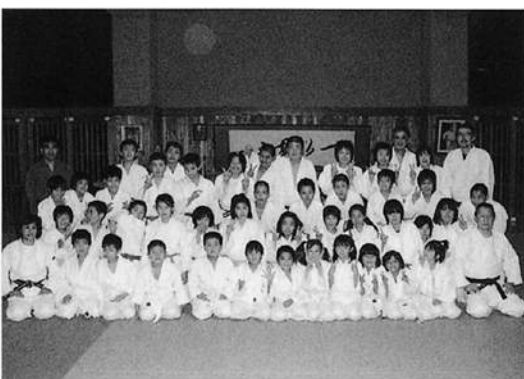


⑥道場紹介
私たち菊川市柔道スポーツ少年団は、菊川市体育協会柔道部の一部として活動をしています。道場の歴史は浅いですが地域の各道場様、菊川警察署様のご協力を頂きながら現在は60名ほどの団員になりました。
菊川柔道の団員各自が柔道を始めた理由はそれぞれ違いますが、礼儀を重んじ、生涯スポーツとして柔道を長く楽しみ、当地域で柔道を行う人が少しでも多くなるように、自主性と人の交流を大切にして道場の運営をしております。

⑥道場紹介
新居町柔道少年団の歴史は故郷の道場を借りて始めた小学生中心の柔道教室が最初です。昭和40年、警察道場にて正式に柔道少年団が結成、昭和45年には新居中学柔道部が創設、昭和47年に約100畳の2代目おそんが道場が完成しました。柔道部入部者は全員が少年団員となり、指導も中学生が中心となり正田先生の基、20年間で団体戦全国3位をはじめ、全国大会4回出場、西部大会8回優勝、個人戦ではOBも含めて10名以上が全国大会に出場しました。その間小学生は積極的な活動は余りありませんでした。正田先生が町長となり、指導が出来なくなりました。そこで中学柔道部が低迷し始めましたが、今後は、中学柔道部は学校の先生にお任せして、小学生の優秀な児童を中学に送ることを目標に、平成4年より小学生を中心とした活動に変わりました。近年卒団生から10名の全中、インターハイ等の全国大

新居町柔道スポーツ少年団

- ②〒431-0303 浜名郡新居町浜名383-1
- ③☎053-594-0509
- ④代表者 白井康二
- ⑤児童1名 小学生34名 中学生10名
高校生1名 社会人10名



会出場者を出しましたが、まだ日本のトップクラスに入る選手は育っていません。我が団の特徴は、将来どんなスポーツにも対応できるように、いわゆる筋トレはやらずに調整力(敏捷性、巧緻性、平衡性)の向上を目指しています。その他毎年、餅つき、遠足、豆まき、合宿、親子柔道教室、ドッジボール大会、スキー教室等の行事を行い、選手以外の団員も楽しめるようにしています。また、毎年少年団主催で県内外から小学生400名を招待して行う柔道大会と、新居町と湖西市を中心とした南浜名湖柔道会主催で年に3回、必ず全員が参加できる大会を、一部国際ルールを用いて開催しています。平成2年には中学柔道場としては、おそらく日本でも余り例のない、約200畳の3代目おそんが道場が完成しました。今後も、このりっぱな道場に負けないよう柔道人口の底辺拡大に努力していききたいと思えます。

平成19年度講道館講習会 静岡県中央指導者講習会

平成19年4月14日(土)
講師 向井幹博先生(講道館道場指導部)

今年度の静岡県中央指導者講習会は、講道館の道場指導部向井先生をお招きして開催された。参加者は協会の関係者を含め、県内各地で主に少年を指導され

ている先生方約110名であった。開会式に続いて、向井先生の御講演から講習会は始まった。講演の内容



小学2年生のときから柔道を

始め、筑波大学に進学した。地元の高校教諭を務めた後、筑波大学の大学院に戻り、その後、縁があつて講道館で主に少年を指導している。

指導者にとつて大切なものは①パッション(情熱)②ミッシン(使命感)③ハイテンション(明るく楽しく)の3つだと思つている。講道館ではアンケートを実施

し、通つてきている子供たちのニーズを確認した。試合に出たい子供たちもいることが分かり、従来の練習時間に1時間プラスして試合に出るための指導を加えた。試合では日本一になることは目指さないで、全国ベスト8に入ることを目標にした。

少年指導では、子供たちが指導者に言われたことを的確に行動できるようにすることが大事だと感じている。試合に出たい子は3割くらいなので、他の子は精神性を求めてきていることに答えて指導する必要がある。柔道を好きになつてもらい、今は弱くても将来柔道の応援団になつてくれればすばらしいことだと思つている。

講演に続いて、実技指導が行われた。準備体操を兼ねて「ドラゴンタッチ」を行い、さらに「アニマル」「カエル」「クモ」「カンガル」「忍者」「ゴリラ」「アザラシ」「キョウシー」などと名づけられているトレーニングを行った。寝技では、「カメ」からの入り方や「ヒラメ」からの入り方の指導が解説された。午後からは「タッチ鬼」で体をほぐし、寝技の続きで、「世



界一周」と名づけられた連絡変化について解説があつた。

続いて立ち技の実技指導が行われた。立ち技では「体さばき」の重要性、特に引き出して技をかけることが実践的に大切で、なかなか大変だがその指導が必要であることを強調された。足技(送り足払い、出足払い、大内刈)の指導方法が紹介された。その後背負い投げの指導法が解説された。

天理大学の藤井省三先生の「ゆさぶり」の必要性を強調されていたのが印象的であつた。また、指導者は「一人よがり」にならないことが大事であり、常に自らも学んでいる途中であるという自覚が必要であること

も強調されていた。

長年、講道館で少年たちを指導されている向井先生の実技指導は理にかなつており、また技のネーミングやユーモア溢れる指導法は子供たちの興味・関心を高めることに役立っているようだった。先生の返し技に入るときに掛け声である「ライダー変身」は見事であつた。

講演、実技指導と全体を通して非常に有意義な講習会になっていた。このような講習会が定期的に行われるとすばらしいと多くの参加者が感じたのではないかと思う。少年レベルの指導法が向上し、柔道の底辺拡大に役立つことを期待したい。



新人選手紹介コーナー

今年度活躍された期待の若い選手を紹介します。今年度も若手選手の活躍状況は、例年通り女性がリードしていますが、男子選手も登場します。団体としては昨年のような報告はできませんが、個人では大いにがんばってくれました。第38回全国中学校柔道大会女子44kg級で準優勝した片岡まゆさん（富士宮市立富士宮第一中学校）、第56回全国高等学校総合体育大会柔道競技男子66kg級第3位の正治和也君（静岡学園高等学校）、そして昨年も登場し、今年は昨年以上の活躍だった第10回全日本女子ジュニア柔道体重別選手権大会52kg級で優勝した加賀谷千保さん（藤枝順心高等学校）です。



片岡まゆさん
（富士宮市立富士宮第一中学校2年）

◎第38回全国中学校柔道大会
女子44kg級準優勝

期待の女子選手、片岡まゆさんです。柔道を始めたきっかけは、お姉さんが柔道をやっており、その影響を受けて柔道の道に入ったそうです。

「目標は優勝することが目標だったので悔しかった。」と強気に語っています。小学校時代から県のトップ選手として活躍しており、6年では全国ベスト8に進出していますから、順調に実力を伸ばしています。2年生ですから、「来年は48kg級で日本一を目指す。」そして、将来は「谷亮子選手みたいに世界で活躍できる選手になりたい。」と夢を語っています。

顧問の渡辺智之先生より「柔道を楽しんでいる選手である。」

常に前向きで、どんなに相手が大きくても強くても逃げることなく倒すことだけを考えています。今年の全中は小差の判定であつたが、来年は48kg級で日本一を目指します。そのために日々練習に取り組んでいます。」という心強いコメントをもらっている。



正治和也君
（静岡学園高等学校3年）

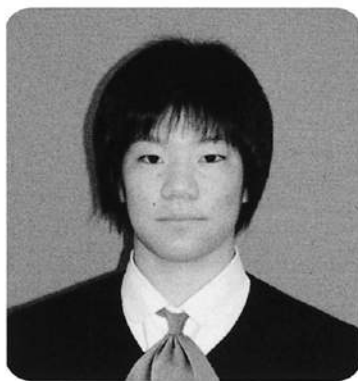
◎第56回全国高等学校総合体育大会
柔道競技男子66kg級第3位

昨年に続き男子選手が登場してくれました。インターハイで3位に入賞した静岡学園高校の正治和也君です。柔道を始めたきっかけは、いとこが柔道をやっている自分でもやってみたくて始めたそうです。入賞の感想としては次のように語っています。「全国大会で上位に入賞

きて本当にうれしかった。今後日本一を目指して頑張って行きたい。」

団体戦のメンバーとしても活躍し、インターハイベスト16進出に貢献しています。今後は日本大学に進学しさらに柔道を続けるそうですから、今後の頑張りに期待したいと思います。

顧問より「チームのキャプテンとしてインターハイでは団体・個人共精一杯やってくれました。今後の活躍に期待したいと思います。」とのコメントをもらっている。



加賀谷千保さん
（藤枝順心高等学校2年）

◎第10回全日本女子ジュニア柔道
体重別選手権大会52kg級優勝

◎2007年韓国ジュニア国際
柔道大会女子52kg級優勝

◎2007年アジアジュニア選手権大会女子52kg級優勝

昨年は高校1年生ながら第9回全日本女子ジュニア柔道体重別選手権大会52kg級で第3位に入賞し、この欄に登場してくれた加賀谷さんですが、今年はさらに大きく飛躍してくれました。全日本ジュニアで昨年の借りを返し見事に優勝し、さらに国際大会でも実績を残しました。団体での活躍も見事でした。

入賞の感想は「まさかの自分が優勝できると思っていました。嬉しいというよりも信じられないという気持ちの方が大きかったです。」と謙虚です。また、「今はジュニアクラスの強化指定選手なので、今後はシニアクラスでも戦える選手になりたいと思っています。」と今後の希望を語っています。

顧問の沼野先生より「毎日の努力の積み重ねが結果につながったのだと思います。今後も努力をしていくことはもちろん、周りの方々への感謝の気持ちを忘れずに頑張ってください。」とエールを送られています。

訃報

故 森本登美夫 八段

平成二十年一月一日逝去
行年八十七歳

森本先生は三島商業高校を卒業し、静岡県警察官を拝命され、県を代表する柔道選手として国体、全国警察大会などに出場し、輝かしい戦績を残された。

先生はその後、警察学校の教官・県警師範として後身の育成に尽力され、多くの人材を世に送り出した。また、常に研鑽を重ね、特に種々の形や活法に精通され、先生の右に出る者はいなかった。

静岡県柔道協会にあっては、県副会長・中部地区幹事長の重責を果たされ、平成十二年には静岡県体育協会から体育賞を贈られている。退任後も柔道協会顧問として適切な助言もいただいていた。

先生は嘉納治五郎師範の説く「精力善用・自他共栄」の心をまさに生涯にわたって実践し、凜とした八十余年の人生を全うされた。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



故 木下浩一 四段

平成二十年一月四日逝去
行年六十七歳

石川県出身。金沢大学卒業後、静岡県高等学校教諭として奉職。浜名高校、磐田農業高校、袋井商業高校、磐田西高校を歴任して、保健体育科教諭、柔道部顧問として活躍された。

お人柄は誠実、温厚実直、且つ剛直であり、生徒指導は熱く、教育者として、人間として、多くの教え子、同僚から敬愛されていた。

磐田西高校在職中に病を得て、定年を待たずに退職され、旺盛な気力で病と闘うも再起叶わず、本年一月四日、惜しまれつつ永眠された。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



故 永野哲夫 七段

平成十九年十二月二十七日逝去
行年六十七歳

先生は昭和十五年静岡市に生まれ、中学時代、静岡柔道倶楽部に入門。静岡県立静岡高等学校より名門早稲田大学に進み、大澤慶己十段に師事。同期には片岡安現九段(島田市金谷出身)がいる。

卒業後、家業を嗣ぐべく帰省、静岡柔道倶楽部にて一貫して修業を続けてきた。

平成四年には、静岡柔道倶楽部会長に就任、静岡市柔道連盟副会長・静岡県柔道協会監事などの重責を全うされた。

先生は、公明正大な理論家の一方、友誼に篤く、円満なお人柄で、その徳を慕う柔道人は多い。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



全国小学生大会開催

平成20年8月24日(日)に第5回全国小学生学年別柔道大会が浜松アリーナで開催されます。全国47都道府県の代表(5年生と6年生、体重別各2階級の男女で全8階級)が参加し、静岡県は開催県として2名出場でき、全48名を3人ずつのリーグで予選を戦い、決勝トーナメントにつなげていく大会です。

来年度の準備ということで第4回大会を視察してきましたのでその報告を簡単にします。

大会前日行なわれた、柔道教室は全柔連が講師選考を行い、今年は篠原選手と徳野選手でした。富山大会では中西英敏先生と山口香先生で男女に分けて指導していました。

試合時間が2分ですから、試合が始まるとどんどん進行していきます。特に、愛媛では8会場にしたので非常にスムーズな進行でした。

浜北グリーンアリーナで6月にマルちゃん杯が行われます。この大会を全国大会のリハーサル大会と位置づけていきたいと考えています。国体、マスターズに続く全国大会です。選手に気持ちよく試合してもらえようがんばろうではありませんか。

トピックス

「バルボザ・ユリ」という名前に記憶はないでしょうか。天竜林業高校で活躍した女子選手ですが、高校卒業後母国ブラジルへ帰国しました。ブラジルでも柔道を受け、先頃の世界選手権にブラジル代表として出場し、嘉納杯にも元氣な姿を見せてくれました。北京オリンピックも十分可能性あるようですのでバルボザさんの今後注目していきたい。

訂正

柔道しずおか第10号3ページ、3段目に「勝呂綾(庵原)二回戦敗退」となっていますが、「勝呂綾(庵原)全国ベスト16」に訂正します。ご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。

速報

高校新人大会

男子団体

- 1位 飛龍高校
 - 2位 浜松商業高校
 - 3位 静岡学園高校
 - 3位 東海大学翔洋高校
- #### 女子団体
- 1位 東海大学翔洋高校
 - 2位 浜松商業高校
 - 3位 庵原高校
 - 3位 藤枝順心高校